

市民大学事業再構築の方向性について③

1 事業目的及びプログラムの方向性

市民大学は現在、様々な学習事業を行っている生涯学習センターの一事業として実施していることから設立当初よりも柔軟な考え方でプログラムの方向性を検討することが可能となっている。そのような背景を踏まえ、第3回運営協議会にて以下の案1～案3の提案を行った。第3回運営協議会の意見聴取の結果から、案2の方向性で見直しを進める方向で考えたい。

	案1	案2	案3
プログラムの方向性	市民ニーズを重視し、「あなたを励ます」型の講座を軸に据える。「地域を育てる」型の講座は年度ごとに実施の可否を検討する（実施を必須にはしない）。	「地域を育てる」型の講座を軸に据え、「あなたを励ます」型の講座は「地域を育てる」型の講座につながるもののみを取り扱う。	「地域を育てる」型の講座のみを実施する。「あなたを励ます」型の講座は他の生涯学習センター講座として取り扱う。
メリット	・（特に現在の受講者の）市民ニーズに応えることができ、受講者の増加が見込める。	・現在の基本理念に合致するかたちで実施することができる。 ・見直し実行計画の方向性に合致する。	・生涯学習センター事業との役割を明確にすることで、資源（ヒト・カネ）の最適化を行うことができる。 ・見直し実行計画の方向性に合致する。
デメリット	・生涯学習センター事業との差別化が困難。 ・見直し実行計画の方向性に反する。	・「地域を育てる」型の講座は、現時点では市民ニーズが高くないため、受講者が減少することが予想される。	・現時点では市民ニーズが高くないため、受講者が減少することが予想される。
必要な対応	・プログラムの方向性に合致するよう基本理念を見直し	・学習領域および学習領域と講座の位置付けを見直し	・プログラムの方向性に合致するよう基本理念を見直し ・学習領域および学習領域と講座の位置付けを見直し

2 「基本理念」と「プログラムの方向性」に基づいて実施する講座について

町田市生涯学習センター運営見直し実行計画では、市民大学の方向性について、「各講座【役割1：学びの裾野を広げる】事業との整理を行い、課題解決型・人材育成型に再構築します。」としている。

上記の記載を市民大学の基本理念「あなたを励まし、地域を育てる」に照らし合わせると、「【役割1：学びの裾野を広げる】事業」は「あなたを励ます」型の講座を指し、課題解決型・人材育成型は「地域を育てる」型の講座を指している。

すなわち、市民大学として実施する講座は、【役割1：学びの裾野を広げる】＝「あなたを励ます」、【役割3：学びを深め、活かす】＝「地域を育てる」のいずれも、課題解決・人材育成に繋がる講座として再構築することになる。

そこで、「地域を育てる」型の講座を軸に据えることを前提としたうえで、「あなたを励ます」型の講座は、「地域を育てる」型の講座に導入するための講座と位置付けて実施することとしたい。

	あなたを励ます型	地域を育てる型	
		案1	案2
①講座の目的	地域課題に関する気づきを与える	地域課題に関する気づきを与え、行動につなげる	地域課題の解消に向けた継続的な活動につなげる
②受講対象	制限なし	制限なし	地域課題の解消に取り組む意識を持つ方
③講座の内容	「地域を育てる」型の講座と体系的に繋がる教養型の講座、地域での日常生活の中で不便に感じることや、改善の余地があることを確認できる講座	地域での日常生活の中で不便に感じることや、改善の余地があることを確認し、不便の解消や生活の質を向上させるための具体的な方法を学ぶ講座	地域課題の解消のために求められている活動や、すでに実際に地域で行われている活動について学び、受講後の継続的な活動につなげる講座
④受講後の受講者に期待する行動	日常生活で個人的に取り組む、地域を育てる型講座の受講する	地域や社会に向けた対外的な行動を取る（知人への助言やSNSでの情報発信などを含む）	ボランティアなどの地域活動に参加する

3 学習領域および学習領域と講座の位置付けの見直し

現在「HATS」という4つの学習領域（※1）に配慮して、現在の7つのテーマの講座（※2）を実施している。しかし、実施している講座の中には、基本理念のうち「地域を育てる」型の講座に発展させる（具体的な行動に繋げる）ことを意図していない講座も存在している。

（※1）学習領域	（※2）現在の実施講座
Humanity（人間性）	まちだの福祉、人間学
Art & Literature（芸術及び文芸）	町田の歴史
Technology&Science（技術及び科学）	多摩丘陵の自然入門、環境学
Sports & Health（スポーツ及び健康）	“こころ”と“からだ”の健康学

また、講座の方向性や目的の見直しに伴い、定められてからすでに約30年経過している学習領域についても見直す必要がある。

「地域を育てる」型の講座は、分野を軸に展開するのではなく受講者の受講後の行動を軸に展開すること、地域課題をテーマとして新たに実施しようとする講座が学習領域に必ずしも当てはまるとも限らないことを考慮すると、今後は学習領域を定めること自体に意味を持たなくなる可能性が高い。

このことから、見直し後は学習領域という概念は撤廃し、「HATS」の名称は広く定着していることから、「ハッと（HATS）しよう」という意味を持つ愛称として取り扱うこととしたい。